

生物多様性あきる野戦略

～未来の子ども達に贈る あきる野の自然の恵み～



東京都あきる野市

<種名について>

本戦略で使用する生きものの種名は、環境省自然環境局（生物多様性センター）に示されている次の目録①～③に準拠したもの（種名）を使用していますが、通称の方が親しまれている次の種については通称を用いました。

①植物：植物目録 環境庁自然保護局編 1987 大蔵省印刷局

web： http://www.biodic.go.jp/kiso/52_list_f.html

②哺乳類・鳥類：日本野生鳥獣目録 平成 14 年 7 月 環境省自然環境局野生生物課

web： <http://www.biodic.go.jp/kiso/15/inventory-of-wildlife.pdf>

③両生類・爬虫類・魚類・昆虫類：種の多様性調査（専門家調査）対象種一覧（1997）

web： http://www.biodic.go.jp/kiso/do_kiso4_mam_f.htm

分類群	種名	通称
哺乳類	ホンドモモンガ ニホンカモシカ	モモンガ カモシカ
魚類	オオクチバス コクチバス	ブラックバス

<生きもの等の画像について>

本戦略に掲載している生きもの等の画像は、様々な方々からご提供いただいたものです。提供者の一覧は、資料編に掲載しています。

<用語等について>

本戦略は、その性格上、専門的な用語を使用している場合があります。本文中にはじめて登場した語句で、語句の後に「*」があるものは、資料編において用語の解説を掲載しています。

市長あいさつ



1995（平成7）年に誕生したあきる野市は、来年の9月で20年の節目を迎えることとなります。2007（平成19）年にあきる野市長に就任して以来、「市民協働」や「環境都市」、「観光都市」をまちづくりのテーマに掲げ、様々な新しい取組を進めてきました。市域の6割におよぶ森林に着目した「あきる野市郷土の恵みの森構想」もその一つであります。

この構想では、「森と人との新たな共生の姿の創出」を目指し、地域の皆さんとの協働による森づくりなどに取り組んでまいりました。また、構想を着実に推進するために設置した「森林レンジャーあきる野」は、毎日のように森の中を調査し、そこに息づく希少な生きものの姿や様々な地域資源の存在を報告してくれました。

さらに、「あきる野市環境基本計画」に基づく「自然環境調査」では、市内各所の動植物の生息・生育状況などが明らかになりました。

これらの調査結果などから、私たちの身の回りにある環境は、多くの生きものの存在や関わりを示す「生物多様性」に支えられていることを改めて認識しました。私たちやその子ども達が、あきる野で永きにわたり健やかに暮らしていくためには、この豊かな生物多様性を保全するとともに、地域活性化に向け、「東京のふるさとあきる野」の魅力の一つとして活かしていくことが必要となります。

この度策定しました「生物多様性あきる野戦略～未来の子ども達に贈るあきる野の自然の恵み～」は、本市の生物多様性の保全と持続的な活用に向けた取組の方向性等を示すものであります。戦略策定に伴い、（仮称）生物多様性保全条例の制定などの生物多様性に関する様々な取組がはじまります。環境基本計画や郷土の恵みの森構想により得られた成果をさらに発展させ、持続的な取組となるよう、また、未来の子ども達に本市の生物多様性を良好な状態で贈り届けることができるよう、市民や事業者の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、本戦略の策定に当たり、本市の生物多様性について、熱心なご審議、ご議論をいただいたあきる野市環境審議会及びあきる野市生物多様性地域戦略策定検討委員会の委員の皆様、貴重なご意見・ご提案をいただいた市民や事業者の皆様にご心から御礼申し上げます。

2014（平成26）年9月

東京都あきる野市長 白井孝

委員長あいさつ



あきる野市の生物多様性戦略にかかわって、あらためてこの地域の自然の豊かさを知ることができた。その大きな要因は三つある。

第一は、自然の基盤をなす地形・地質の多様性である。山地から丘陵地、台地、低地が連続しており、河川がその間を源流から中流域に流れ下る。このような多様な環境は東京都においては他にない。これは天与のものである。

第二は、この地の歴史の豊かさである。はるか古代にさかのぼる歴史は、集落や農地や山林に重層的に織り込まれ、天然記念物のような自然の文化財と社寺などの人文の文化財を多く有している。現在の土地利用が歴史を残す文化財でもあり、そこに多様な生きものが生息している。これは人知によるものである。

第三は、住民の自然に対する態度とまなざしである。自然好きが集まってまちができていように思われる。人は地域の力であり財産である。

あきる野市は生物多様性戦略を持つのにふさわしいまちである。この戦略をきっかけにして、更なる生物多様性を追求されていくことを期待している。

あきる野市生物多様性地域戦略策定検討委員会 委員長
亀山 章

副委員長あいさつ



あきる野市の植物に関するこれまでの個人的な調査では、多くの貴重な種が見いだされている。この状況から推察すると、市域の自然性は高く、きわめて多くの生きものが生息して複雑な生態系を形作り、あきる野市の自然全体を支えているものと思われる。

一般に地域に住む野生生物の行動は、地域住民に様々な利益をもたらしているにもかかわらず、調査が行き届かない場合には断片的な現象でしかとらえられていないのが現実である。今回の戦略策定作業には、あきる野市をよく知る研究者の専門的な知識が集められ、提案され、議論された。その内容は具体的に地域区分ごとにまで及んでいる。この多様性の高いあきる野市の自然環境において、野生生物の側からの市民への注文が随所に表現されている。自然を人間が管理するという陥りやすい考え方を捨て、常に謙虚に接していきたい。そのためにも今回の策定は、市政における多様性保全について正しい指針と確かな戦略を示したことになる。

あきる野市生物多様性地域戦略策定検討委員会 副委員長
奥田 重俊

プロローグ

こころ休まる風景とともに暮らす

都心から 40～50km に位置するあきる野市は、緑と水にあふれ、豊かな自然に抱かれたまちです。都心の喧騒から電車や車を使って 1 時間余りで訪れることができる、まさに「東京のふるさと」といえる趣きがあります。都内でありながら、このような緑あざやかな山並みを背景に、清流のせせらぎを感じながら日々生活することができることはとても稀有なことなのです。

では、なぜあきる野市にはこのように豊かな環境が維持されてきたのでしょうか。

それには二つの大きな要因があると考えられます。一つ目は自然（風景・景観）、そして二つ目は人（郷土愛・自然観）です。

まず一つ目は、あきる野市には私たちの目にする自然を形づくる様々なタイプの風景（景観）が、すべてそろっているということです。

自然を形づくる様々なタイプの風景とは、「山地」「丘陵」「河川」「台地」「平野」「海」の 6 つを指します。「なぜあきる野市に海が？」と思う方もあるでしょう。それは後ほど説明するとして、東京都内にありながら、海以外の 5 つの要素が全て揃っていることだけでも珍しいといえるのです。

あきる野市には秋川の源流である檜原に連なる豊かな山と深い森があります。硬い地質を反映した溪谷や滝など、ダイナミックな地形も魅力です。秋川丘陵（加住丘陵）や草花丘陵では常に人の暮らしとともにあった雑木林が今も残っています。山や丘を切って流れる秋川は上流では溪谷を刻み、下流では広い河原をつくっています。この「秋川溪谷」はあきる野市を代表する自然資源です。多摩川や秋川によって過去 100 万年の歴史の中でつくられた台地には私たちの食生活を支える畑が広がり、台地の縁にはこんこんと湧き出る地下水があります。そして秋川、平井川によってつくられた沖積平野には水田が拓かれ、その一部は今でも維持されています。

加えて、あきる野市の成り立ちをふりかえると、さらに興味深いことがあります。

あきる野市が化石の宝庫であることはよく知られていますが、古生代の石炭紀からはじまり、中生代、そして新生代第三紀、第四紀と長い地球の歴史の生き証人がそろって化石として産出する、いくなれば地学の博物館です。特に五日市町群層と呼ばれる第三紀の地層からは、かつて五日市盆地が海に開けた大きな深い入江だった時代の貝やウニなどの化石がたくさんみつかっています。あきる野市はかつて「海」だったのです。この地層が残っていることが、あきる野市の風景や生態系をより豊かにしています。実際に東京周辺でこのような要素が全て揃っているところはないといってよいでしょう。このようにあきる野

市の自然の多様さは眼を見張るものがあります。

二つ目は人間の側面です。あきる野市に人々が定着して生活するようになったのは、最後の氷河期が終わり、だんだんと気候が暖かくなってきたおよそ一万年前にさかのぼります。縄文時代の前田耕地にはじまり、弥生時代、古墳時代を経て古代へと、常に多くの人々の営みのあとが確認できるのは、豊かな自然の恵みが身近にあり、生活を支えていたからにほかなりません。中世以降になるとあきる野市域は物流の拠点となっていきます。戦国時代末期までは伊奈に市が立ちましたが江戸時代になると五日市にその舞台が変わります。五日市は山々から切りだされた材木や炭を中心に江戸の町への物資の供給基地となっただけではなく文化人をはじめ商人や知識人など多くの人を惹きつける魅力があり、豊かな文化圏を形成しました。江戸時代から続く五日市の繁栄は時代が明治になっても変わりませんでした。西多摩で最も早く都市機能を備えた五日市は、現代を先取りするような高い自由や権利をうたった、我が国でも屈指の私擬憲法草案である「五日市憲法」がうまれた舞台にもなりました。

このような進取の気風は現代のあきる野市民にも脈々と受け継がれてきています。

あきる野市ではこれまで、市民自らの手による「知って守ろうあきる野の自然」や「あきる野市自然環境調査報告書」がつくられてきました。また、基礎自治体としては初の森林レンジャーが生まれ、市民と協働して主体的な森林保全活動の場を広げています。このような郷土を愛し、郷土に学び、それを活かし守っていこうとする先人より引き継がれる自主的な精神が、あきる野市の自然を豊かに保つためにどれだけ役に立ってきたかはいうまでもありません。

このような豊かな自然や歴史を背景に人の営みによって生まれ、維持されてきたのが「生物多様性」なのです。私たちは、この生物多様性の恵みを守りいかにして、より豊かで心地よい「東京のふるさと」をめざして「生物多様性あきる野戦略」を示します。

あきる野の森

あきる野市の西部を中心に広がる森は、あきる野の特徴の一つであり、地域の歴史を物語っています。スギ・ヒノキの植林地は、かつて林業が盛んであった頃の名残りであり、先人達の林業にかける想いが伝わってきます。奥山には、自然性の高い森もみられ、季節に応じて姿を変える森の姿は、ハイカー達の目を楽しませてくれます。

また、あきる野の森は、大型の哺乳類をはじめとする様々な生きものの命を育むとともに、清らかな水や澄んだ空気も作りだしています。

豊かな自然環境の象徴“クマタカ”

あきる野の山地に生息が確認されているクマタカは、森の食物連鎖の頂点に立つ生きものであり、生息には食べ物である小動物などが豊かである必要があります。全国でも個体数の少ないクマタカが生息していることは、あきる野市に豊かな自然環境が残されている証です。

両生類・爬虫類の王国 あきる野

豊かな水辺環境と森や里山などの多様な自然環境を有するあきる野市には、非常に多くの両生類や爬虫類が生息しています。奥山の渓流や沢には、ナガレタゴガエル、ヒダサンショウウオなどが、里山の水辺や水田などでは、トウキョウサンショウウオ、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエルがみられます。

あきる野市の多様な自然環境が、これらの様々な種類の両生類や爬虫類を支えています。



-  ツキノワグマ
-  カモシカ
-  キツネ
-  イタチ
-  ヤマネ
-  カワネズミ
-  カヤネズミ
-  ムササビ
-  アオバスク
-  クマタカ
-  オオタカ
-  チョウゲンボウ
-  ノスリ
-  キジ
-  ヤマドリ
-  サンコウチョウ
-  ヒバリ
-  ミソゴイ
-  コガモ
-  アオダイショウ
-  ナガレタゴガエル
-  トウキョウダルマガエル
-  カジカガエル
-  ヒダサンショウウオ
-  トウキョウサンショウウオ
-  カジカ
-  ギバチ
-  ホトケドジョウ
-  ヘイケボタル
-  オオムラサキ

命の源 あきる野の里山

秋川丘陵(加住丘陵)は、四季折々に様々な姿をみせ、秋川渓谷の水面にその姿を映しています。あきる野市の南北に位置する秋川丘陵や草花丘陵は、「里山」として人々の生活の糧となってきました。クスギやコナラ、クリ、ヤマザクラなどから成る里山の雑木林には、カブトムシやオオムラサキなどの多くの昆虫が集まり、これを餌とする動物たちも訪れます。また、雑木林からうみ出される果実やドングリも、動物達の餌であり、里山は様々な生きものの命を育んでいます。

清流 秋川

清流秋川は、都内でもめずらしくダムのない河川で、清らかな水の流れば、風光明媚な秋川渓谷の景観をつくり出しています。檜原村を源頭とし、その河畔の樹林や広い礫河原とともに多くの生きものの命を支えてきました。アユなどの魚たちを求め、多くの釣り人が訪れるとともに、自然が織りなす景観美は観光で訪れる人々を魅了します。

里の川 平井川

平井川は、日の出山に源を発し、草花丘陵の裾をゆるやかに流れる里山の河川で、ホトケドジョウなどの希少な生きものの姿をみることができます。川沿いにはツルヨシやオギの群落などがみられ、現在も多くの自然がみられます。地域の人々が川沿いを散策したり、子ども達が遊ぶ姿がみられるなど、地域でも大切にされています。

生きもの賑わうあきる野市の自然

生物多様性あきる野戦略

～未来の子ども達に贈る あきる野の自然の恵み～

あきる野市の象徴の一つである秋川の流れに沿いながら、
未来へと伝えていきたい自然環境や生きものを紹介します。

私たちの子ども達、さらにその子ども達にも、
様々な生きものが棲む豊かな自然とその恵みを贈り届けられるよう、
あきる野市は生物多様性の取組をさらに進めていきます。

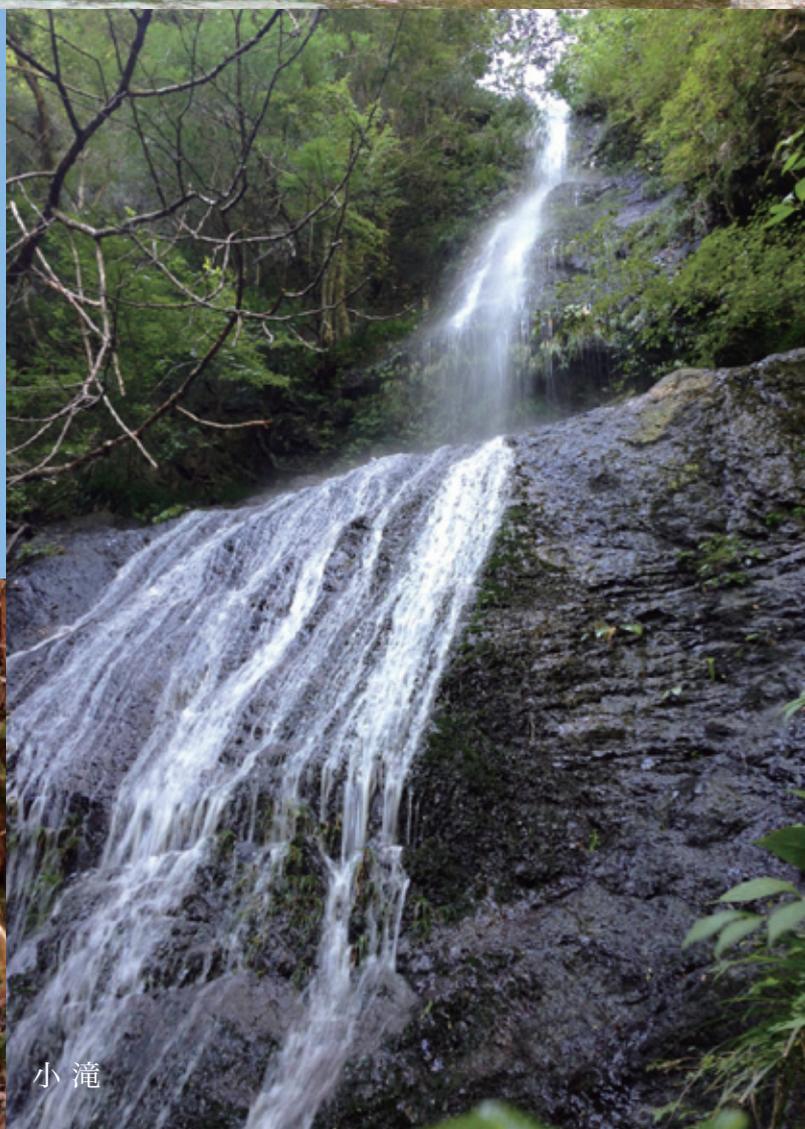




秋川上流



クマタカ



小滝



カモシカ



大岳沢



城山



山抱きの大カシ



雪の石舟橋



秋川中流



オオムラサキ



モリアオガエル



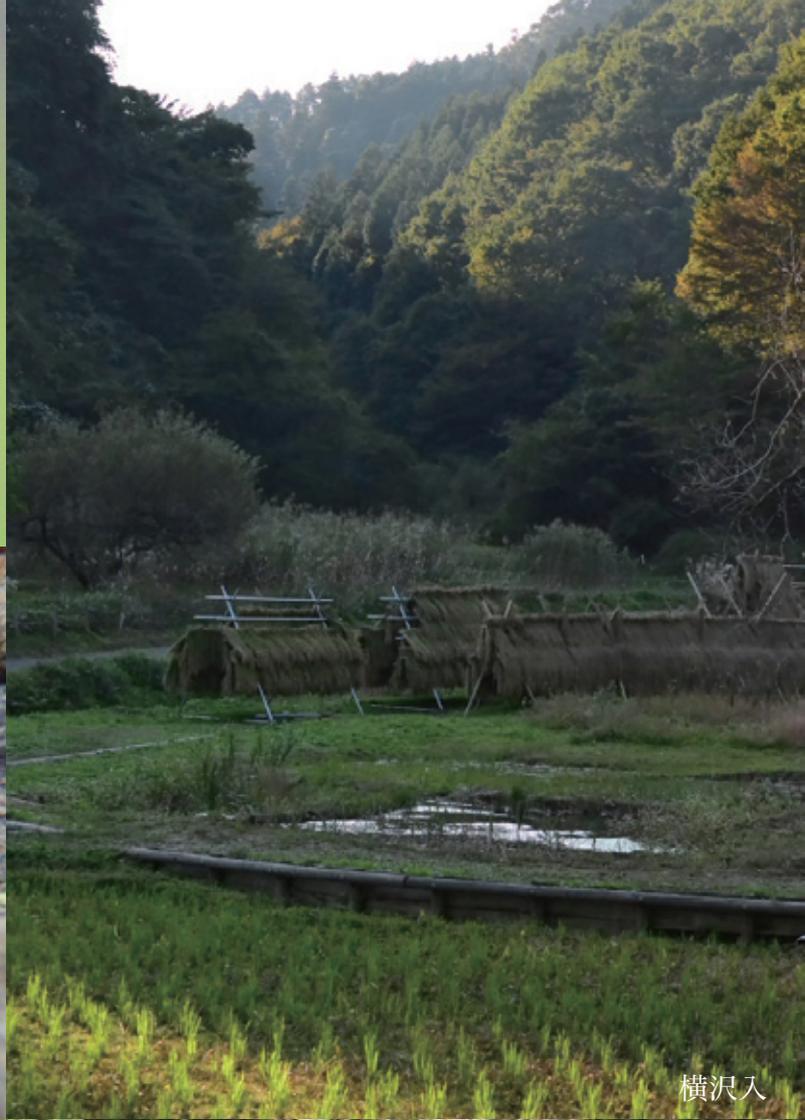
金比羅山から臨む五日市のまち並み



ヤマトセンブリ



ホトケドジョウ



横沢入



網代地区 弁天山



秋川下流



カタクリ



雨武主神社



南郷用水路



秋留台地



トウキョウサンショウウオ



ヒバリ



二宮神社のお池

目次

第1章 生物多様性あきる野戦略策定の背景

1 生物多様性とは	2
コラム 1 ー生物多様性という言葉の定義	3
(1) 生態系の多様性	3
(2) 種の多様性	4
(3) 遺伝子の多様性	4
2 生物多様性と私たちの暮らし	5
3 生物多様性の危機	7
(1) 第1の危機	7
(2) 第2の危機	7
(3) 第3の危機	8
コラム 2 ーあきる野市でみられる主な外来種	9
コラム 3 ー特定外来生物とは	10
コラム 4 ーあきる野市の有害鳥獣対策や外来種対策	10
コラム 5 ークリハラリス防除の取組	11
(4) 第4の危機	12
4 生物多様性をめぐる国内外の動きとあきる野市の取組	13
(1) 世界の動き	13
(2) わが国の動き	15
(3) 東京都の動き	17
コラム 6 ー東京都「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～」	18
(4) あきる野市における生物多様性の取組	19
コラム 7 ー郷土の恵みの森づくり事業とは	22
コラム 8 ー横沢入里山保全地域	24
コラム 9 ー保護・保全・維持の違いとは	28

第2章 生物多様性の現状と課題

1 本市の社会特性	30
(1) 人口の推移	30
(2) 産業構造の推移	31
(3) 土地利用及び道路整備の状況	31
(4) 自然公園の指定状況等	35
2 自然環境の特徴	36
(1) あきる野の成り立ち	36
コラム 10ーカタクリはどうやって生き残った？	39
(2) 地形・地質	41
コラム 11ージオパークとは？	43
(3) 植生・植物	44
(4) 動物	48
(5) 人の営みと生きもの	51
コラム 12ー「のらぼう菜」と「秋川とうもろこし」	56
3 地域区分と地域ごとの現状と問題点	57
(1) 地形・地質による区分	57
(2) 河川の流れによる区分	58
(3) 森の種類による区分	59
(4) 生物多様性に関する地域区分の設定	60
(5) 地域ごとの現状と問題点など	63
4 生物多様性の課題	80
コラム 13ー様々な森の種類	84

第3章 生物多様性あきる野戦略の基本的事項

1 基本理念	86
2 目的	87
3 位置付け	88
4 推進主体と期待される役割	89
(1) あきる野市の役割	89
(2) 各推進主体に期待される役割	90
5 対象区域	92
6 実施計画の策定	92
7 対象期間	92
8 基本方針	93
9 本市が目指す望ましい姿	95
(1) 望ましい姿	95
(2) 地域ごとの望ましい姿	96
(3) 望ましい姿の可視化	98

第4章 望ましい姿の実現に向けた取組

1 望ましい姿、基本方針及び取組の体系	102
(1) 施策の柱の設定	102
(2) 基本戦略の設定	103
2 施策の体系	104
3 施策及び取組の概要	106
(1) 施策の柱①：知る・調べる	107
(2) 施策の柱②：学ぶ・受け継ぐ	113
(3) 施策の柱③：守る	120
(4) 施策の柱④：創る	128
コラム 14 ー地域との協働で復活した昔道	133
コラム 15 ー秋川	134
(5) 施策の柱⑤：活かす	137
コラム 16 ー秋川溪谷物語	141
コラム 17 ー森っこサンちゃん	141
(6) 施策の柱⑥：つながる	145

第5章 各地域における取組方針

1	上養沢地域	152
(1)	取組方針	152
(2)	主な取組	153
2	戸倉・小宮地域	154
(1)	取組方針	154
(2)	主な取組	154
3	盆堀地域	156
(1)	取組方針	156
(2)	主な取組	157
4	深沢地域	158
(1)	取組方針	158
(2)	主な取組	159
5	五日市・増戸地域	160
(1)	取組方針	160
(2)	主な取組	160
6	秋川丘陵地域	162
(1)	取組方針	162
(2)	主な取組	162
7	秋留台地地域	164
(1)	取組方針	164
(2)	主な取組	164
8	草花丘陵地域	166
(1)	取組方針	166
(2)	主な取組	166

第6章 推進体制と進行管理

1 推進体制	170
(1) 各推進主体の連携	170
(2) 協働組織などの設置	171
(3) 協働組織などの位置付け	172
2 進行管理等	173
3 戦略の見直し	174

資料編

1 検討体制	176
(1) あきる野市環境審議会委員名簿	176
(2) 策定検討委員会委員名簿	177
(3) 部長会議名簿	177
(4) プロジェクトチーム委員名簿	178
2 検討の経緯	179
(1) あきる野市環境審議会での審議経緯	179
(2) 策定検討委員会での検討経緯	179
(3) 部長会議における検討経緯	181
(4) プロジェクトチームでの検討経緯	181
3 用語解説	182
4 本戦略の基礎となった各種資料について	190
5 写真等の提供者	190

